

看護学生の雑誌に掲載されました

2年生が10月に雑誌の取材を受けました。
その内容が、看護学生雑誌「クリニカルスタディ」3月号に掲載されました。
是非、ご覧くださいね。



先輩に聞いてみた

実習 Story File

ストーリーファイル

【今までの実習で最も印象に残っている出来事は何ですか？】

永井: 基礎看護学実習IIで受け持った患者さんとのかわりです。その方はADLが低く、はっきりと発声することができませんでした。初めは声が聞き取れずにとまどいましたが、患者さんの目元と口元を注視しながら会話を重ねることで、次第に聞き取れるようになりました。また、全身清拭などのケアを実施したときは、患者さんの表情から安楽かどうかのわかるようにもなりました。最終日のあいさつでは、ほほ笑みながら「ありがとう」と言っていただけでうれしかったです。

山野: 初めての臨地実習で受け持たせていただいた、重症心身障害の患者さんとの非言語的なコミュニケーションです。言語的なコミュニケーションが難しくても、患者さんの目の動き、表情の変化、手の動きなどを観察することで、意思や要望を理解できるようになることを実感しました。患者さんの反応を見逃さず、ていねいにかかわることの大切さを感じることができました。

柏木: 基礎看護学実習Iで受け持った患者さんが回復していく様子に印象的でした。その方は体動困難のため食事介助が必要でしたが、看護師さんは退院後を見据え、患者さんの“できること”に注目し、ポジティブな声かけをされていました。私も看護師さんの声かけを参考にしながら食事介助を実施し、段階的に自立度を高められるように工夫した結果、実習最終日にはご自分で食事を口元に運び、食べられるまでになりました。

鳥海: 私も食事介助が印象に残っています。初めての臨地実習の初日に療養介助専門員さんの食事介助を見学し、翌日から看護師さんの付き添いのもと食事介助を行うことになりました。患者さんの食事のペースや、スプーンにのせる食べ物の量、口にスプーンを入れる角度など注意すべきポイントが多く、うまく介助するのに苦労しました。その反面、患者さんが無事に食べてくださったときには“できた”という達成感を得られました。

【2年次からの実習ではどのような準備が重要になるか教えてください】

永井: 2年次の実習は、領域別の看護過程を学んでいきます。そのため、領域ごとに患者数の多い疾患や、疾患が及ぼす影響などの知識を深めておく必要があります。私は実習先の病棟がわからず、その領域に関する教科書をチェックするなどして、事前学習を行うようにしています。

山野: 受持ち患者さんの疾患に加えて、小児・成人・老年といった年齢層ならではの特徴と合併症などを調べておくよと思います。たとえば老年看護学実習で接する高齢患者さんであれば、聴力や視力が低下している方が比較的多いため、聞きとりやすい声の大ききやトーン、立ち位置などを覚えておく役に立ちます。患者さんの個別性に合わせた看護ができるように、これからも学びを深めていきたいです。

柏木: 事前学習として、疾患をとらえて理解することが必要です。領域別実習では病態関連図をよく作成しますが、疑問点や不明点は解剖生理の知識によって明らかになる場合が多いと実感しました。また、疾患を理解することは、患者さんの観察ポイント把握し、今後起こり得る症状の予測にもつながります。私が解剖生理を勉強する際は、まず正常な状態と機能を把握してから、疾患ごとの機序や症状、バイタルサインなどを覚えるようにしています。

鳥海: 実習でわかかることが多い年代と同年代の身近な人と話して、その年代の方が抱えやすい社会背景や悩みを知っておくのが良いと思います。疾患だけでなく、患者さんが人として抱える悩みを理解することで、その方の個別性をより深く理解できます。受持ち患者さんは年上の方が多く、私たちよりも長い人生経験をもつ先輩であることを意識して、礼儀を忘れず、相手を尊重しながら積極的にかかわっていく姿勢が大切です。

今月の先輩

静岡医療センター附属静岡看護学校の2年生の皆さん

進級を控える1年生へアドバイス

山野 初音さん
看護学生はメリハリが大切。勉強するときは勉強し、遊ぶときは全力で遊びましょう。

永井 美穂さん
友達と笑い合いながら、1日1日を楽しんでください！一緒にすすめる看護師になれるようにがんばりましょう。

山野 初音さん
自分なりの勉強法を見つけることは今後の助けになります。今のうちにぜひ見つけるようにしてください。

永井 美穂さん
テストや実習で不安になることもあると思いますが、まわりの友達や先生が支えてくれる力があります。仲間を大切にしてください。

School Profile

独立行政法人国立病院機構
静岡医療センター附属
静岡看護学校

〒411-0905
静岡県静岡市清水区長興762-1
TEL: 055-976-5455

1963（昭和38）年に創設され、60年以上の歴史を持ちます。キャンパスは、北に富士山、東に海を望み、近くには清水港にも面している自然豊かな環境があり、豊かな自然環境に囲まれています。“人を愛し、人に愛し、人を尊重し、命を大切にすることができる看護師になる”をモットーに、学生一人ひとりの個性を大切にしながら、夢の実現のために誰か一人ひとりのサポート体制を整え、教育を行っています。国際的な視野から、静岡医療センターと連携し、国際に貢献をとりながら、臨床や地域で活躍できる看護師育成を目指しています。

出典：クリニカルスタディ 3月号 メヂカルフレンド社